CASBEE-新築(簡易版)2010年版
厚生棟

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築（簡易版）2010
■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.6)

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.7
Q1 室内環境			0.40			3.2
1 音環境		3.6	0.15	-	-	3.6
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		4.6	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	サッシ遮音性能T-2	5.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能	界壁遮音性能Dr-40以上	4.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	-	
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境		2.5	0.35	-	-	2.5
2.1 室温制御		3.3	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	3.0	-	
2 負荷変動・温度制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-	
4 ゾーン別制御性	ゾーニング別に冷媒系統を分けている	4.0	0.38	-	-	
5 湿度・温度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 特殊な空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 熱源システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		2.9	0.25	-	-	2.9
3.1 昼光利用		1.8	0.30	-	-	
1 昼光率		1.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		4.0	0.30	-	-	
1 映り込み防止のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御	ブラインド+庇	4.0	1.00	3.0	-	
3 映り込み対策		-		-		
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境		4.2	0.25	-	-	4.2
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆または規制対象外材料をほぼ全面に使用	5.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-	
4 給気汚染		-	-	-	-	
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-	
1 CO_2の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	喫煙室を設置	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		–	0.30	-	-	3.9
1 機能性		4.1	0.40	-	-	4.1
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性	1人あたりの執務スペースを9㎡以上確保	4.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画	福岡県福祉のまちづくり条例整備基準に同等	4.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	事務室の天井高2.7m	4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース	喫煙室、リフレッシュスペース、自販機置場あり	5.0	0.33	-	-	
3 内装計画	建物全体のコンセプトを基に内装・照明計画を立案	5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		5.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	メンテナンス性に優れた素材の選定	5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	SK、用具庫を適切に配置	5.0	0.50	-	-	
3 清掃・保守業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.4	0.31	-	-	3.4
2.1 耐震・免震		3.8	0.48	-	-	
1 耐震性	25%以上の耐震性能を確保	4.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		2.9	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管VLP　排水管VP	4.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性		3.6	0.19		-	
1 空調・換気設備	空調熱源二重化（ガス・電気）、個別方式による系統の細分化	4.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備	節水器具採用・給水系統の細分化・非常用排水貯留槽設置	5.0	0.20		-	
3 電気設備		3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性		4.2	0.29		-	4.2
3.1 空間のゆとり		5.0	0.31		-	
1 階高のゆとり	階高4.8M確保	5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.1未満	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり	4500N/㎡以上	5.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性		3.0	0.38		-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.17		-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.17		-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.11		-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.11		-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.22		-	
6 バックアップスペース		3.0	0.22		-	
Q3 室外環境（敷地内）		–	0.30	-	-	4.2
1 生物環境の保全と創出	潜在的植生の再生	4.0	0.30		-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮	市民に開放された森の整備、景観に配慮した外装	5.0	0.40		-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮		3.5	0.30		-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	市民に開放された森の整備、庇の設置	4.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性		–	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー		–	0.40	-	-	4.3
1 建物の熱負荷抑制	断熱性の高い資材使用・PAL値低減39.7%	5.0	0.30		-	5.0
2 自然エネルギー利用		3.5	0.20		-	3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50		-	
2.2 自然エネルギーの変換利用	太陽光パネルを設置	4.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化		5.0	0.30		-	5.0
集合住宅以外の評価（ERRによる評価）	ERR=35.3%	5.0				
集合住宅の評価		3.0				
4 効率的運用		3.0	0.20		-	3.0
4.1 モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル		–	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護		3.0	0.15		-	3.0
1.1 節水		3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減		2.8	0.63		-	2.8
2.1 材料使用量の削減	主要躯体の鉄骨基準強度F＝355N以上F＝440未満	4.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	–	3.0	0.20		-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	–	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	内装材と設備を錯綜を避ける計画	4.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.6	0.22		-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4項目以上の有害物質を含まない材料あり	5.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.68		-	
1 消火剤		-	-		-	
2 発泡剤（断熱材等）		3.0	0.50		-	
3 冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境		–	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率74%	4.0	0.33		-	4.0
2 地域環境への配慮		3.1	0.33		-	3.1
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.7	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制	自転車置場、駐車スペース、荷捌きスペースの確保	5.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制	分別できるスペースを確保	4.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮		3.1	0.33		-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
1 騒音		3.0	0.33		-	
2 振動		3.0	0.33		-	
3 悪臭		3.0	0.33		-	
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制		2.3	0.40		-	
1 風害の抑制		2.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制		-	-			
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制		5.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	夜間消灯、屋外広告物の計画なし	5.0	0.70		-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策	グレアの少ないガラスを使用	5.0	0.30		-	